演題：　Diagnostic Excellence 研究の今後の展望

Diagnostic Excellence は近年医療の質、診断の質を議論する上で外すことができないトピックとなっている。当領域は 1999 年 Institute of Medicine の To Err is Human の報告書以来歴史の古い部分であるが、Diagnostic Error の言葉の流通につづき、2021 年の主要紙における Diagnostic Excellence のスローガンを経て、また業界の多くの人々の奮闘により、医療の質における診断の質のクローズアップがようやく日の目を見るようになってきたと言えるのではないかと考えられる。無論この領域は学術的にも深める価値が高く、様々なセッティングで、様々な切り口やコンセプトでの論文創出が続いている。本邦においてもこの熱は高く、診断の質をメインとする国際学会である Society to Improve Diagnosis in Medicine（SIDM）においてもアジア勢で随一の参加者数を誇るのは本邦である。そんな中、この領域で熱心に活動し、また本邦におけるこの領域の最大規模かつ組織横断的若手チームである Japan Diagnostic Excellence team (JDX)から、実際の研究のテーマ例や全体への展望について熱く語っていただくことで、本領域の学術的に魅力をお伝えしたい。